進行形の意味についての一考察

柏 原 直 美

Ⅰ．序　　論

古英語，中英語前期では単純形の現在形，過去形に限られていたが，中英語後期から徐々に複雑な進行形，つまり完了進行形，受身の進行形，未来進行形が現れ始めたようだ。中尾（1992, p. 127）によると，be going to は 17 世紀以後，have /had been -ing のように完了形の進行形が 18 世紀に一般化され，be having to は 20 世紀になってからの発達であるという。ここで 14 世紀頃から見られる He *is on hunting* の類を考えてみたい。中島（1970, p. 203）は，この *hunting* は現在分詞ではなく，動詞から作られた抽象名詞であり，*on* はそれを支配する前置詞で *is on hunting*＝is in the course of hunting, engaged in hunting であると述べている。また The house is *a-building* が *building* になると意味が不明になるが，それは The house *is building* が *is a-building*（建築中である）の意味を表わすので受身の意味になるからである。中島（1970, p. 204）によると，受身になるのは本来能動でも受動でもない *-ing* 名詞（*building*＝construction）が他動詞の現在分詞と混同された結果で，18 世紀後半には *is being built* という受身の進行形が現れ，今では受動態に is building とはいわず，また受身でも is built と is being built とははっきり区別される。Jespersen（1938, p. 194）も，18 世紀末から受身文 *The house is being built*. が使われ，それ以前は *The house is building*. が正しかったとしている。このような歴史的発達を遂げた進行形について考えることは興味深いように思われる。本稿では，一般的に言われている進行形の意味をさまざまな立場から考え，進行形についての先行研究を取り上げ，主に限定的継続，感情的表現，動詞の意味分類，共起する副詞類について考察し，実際の作品から引用した例をあげて，どのように進行形が使われているかを考えていきたい。

Ⅱ．先行研究の要約

この章では，進行形の意味についての先行研究の考察として，進行形の中心的意味の 1 つである限定的継続と感情的表現，そして進行形の意味用法に大きく影響する動詞の意味分類と，共起する副詞類について考察する。

2. 1. 限定的継続

2. 1. 1. 進行形の意味

Quirk et al.（1985, p. 198）は進行形の意味を 3 つの要素に分けている。

（a）the happening has DURATION
（b）the happening has LIMITED duration
（c）the happening is NOT NECESSARILY COMPLETE

すなわち，進行形の中心となる意味として（a）継続，（b）限定的継続，（c）出来事が必ずしも完了していない未完了，をあげている。Quirk et al.（1985, pp. 197 f）は次のように単純形と進行形を比較している。

（1）Joan *sings* well.
（2）Joan *is singing* well.

(1) は彼女がすばらしい声を持っており，歌手として優れている，という恒常的な性質が表れており，(2) はある特定の時期の特定の行為として彼女が歌っている，ということを言及している。

（3）I *read* a novel yesterday evening.
（4）I *was reading* a novel yesterday evening.

(3) はその小説全部を読んだことを示すが，(4) は昨

晩のうちにその小説を読み終えたということを示していない。小説を読み終えるという行為が完了していないといえる。

2. 1. 2. 限定的継続と非限定的継続

Leech（1971, pp. 15 f）は限定的継続と非限定的継続の違いを次のように述べている。

（5）My watch *works* perfectly.
（6）My watch *is working* perfectly.

(5) は永続的な状態で「私の時計はたいがい信頼できる」，(6) は一時的な状態で「私の時計は特に信頼できるわけではなく，過去にも故障したし，これからも故障するかもしれない」となる。非限定的継続の現在形が進行形と対立をなしているという。

2. 1. 3. 限定的継続にわたる習慣的な動作

Palmer（1974, pp. 68 f）は，限定的継続（Limited duration）を次の例において説明している。

（7）He *goes* to work by bus.
（8）He*'s going* to work by bus.

(7) は彼はいつもバスで行っているということを示すが，(8) はおそらく彼の車がこわれたので今は（一時的に）バスを利用せざるをえなくなっている，ということを示している。動作は習慣的であるが，限られた期間にわたるものである。また期間は，副詞語句，特に in those days, these days や more and more によって限定されているという。

（9）I *went* to work by bus.
（10）I *was going* to work by bus *in those days*.

(9) は一生涯バスで仕事に行ったことを示すが，(10) はそのころはバスで行っていたが今は車があるということを示している。このような副詞語句は限られた継続を暗示しているといえるだろう。

2. 2. 感情的表現

2. 2. 1. 進行形と感情表現

進行形が色々な感情表現に適した形であることは，多くの学者によって指摘されてきている。池田（1967, p. 106）は次のように進行形が感情を表わしている例を挙げている。

（11）I *have paid and received* calls almost everyday for the last fortnight.
（12）I *have been paying and receiving* calls almost everyday.

(11) は単に事実をのべているだけであるが，(12) は忙しい毎日を送っている自分を心に描き出し，そうした生活に疲れてしまったという感情を表わしているという。

2. 2. 2. 強調

Scheffer（1975, p. 40）は，

> . . . it（*i.e.* the progressive）is used to *emphasize* the action, state, occurrence predicated by the verb with reference to a contextually defined moment or period in time. It is used as a grammatically weightier form than the non-progressive to draw special attention to the predication, to the nature of the activity — including action, state, occurrence, etc. — expressed by the verb in the progressive.

と述べている。つまり Scheffer は「強調」を進行形の根本義としている。また細江（1931, pp. 127 f.）は進行形の根本義は「集中叙述」であるとしている。すなわち「進行形の本義は欧米の学者の多くが説くように時の姿や動作または状態の客観的な性質の中に求められるべきものではなくて，ある事柄を如実に認識（回想または予想）して，かつしばらく熱心に心をそこに留めて陳述するものである」と述べ，進行形が「ある事柄に注意を集中させつつこれを述べる役目を務めるもの」であると説いている。これまで多くの学者が，進行形の中心的意味を「継続性」，「一時性」，「未完了」にあるとし，「強調」はその周辺的意味としてあると考えているが，Scheffer と細江は進行形の本義は強調であるとし，これとは矛盾している。この違いを見ても，進行形のもつ意味の複雑さやとらえ難さがわかるように思える。

2. 2. 3. 感情的色彩

Scheffer（1975, p. 91）は進行形が「強調」の効果をもたらすことから進行形が文に「感情的色彩」を与えるということを述べている。細江も同様に進行形が

強調の語形であり感情的色彩をもたらすという。ではなぜ進行形が強調の語形であるから感情的な色彩を与えることになるのだろうか。Jespersen（1931, p. 180）は，

> The use of the expanded forms often gives a certain emotional colouring to a sentence. This may be partly explained from the mere physical length of the linguistic expression as compared with the simple tenses ;

とし，単純形に比べて語形が長いことにその根拠を見いだしているが，一方進行形の継続性，反復性に求める考えもある。Charleston（1960, p. 228）は感情が進行中のことに影響を及ぼしていないのなら単純形が使われる，すなわち単純形は単にありのままの事実を示し，進行形は生き生きと，鮮やかで創造的な印象を読者（または聞き手）に与えるので，感情がこもった陳述には進行形，客観的陳述には単純形が使われる，と述べている。つまり進行形は感情を表現するための技巧の一種と考えられるのではないだろうか。

2. 2. 4. 近接未来

進行形が未来のことに関して使われる場合も感情的色彩が表われることが多いように思われる。池田（1967, p. 108）はそのことを次のように述べている。

> 「もうおいとましなければなりません」は，I'm afraid I must be going. と進行形で言うのが普通である。I must be going. は近接未来で，I must go. は出発時刻はいつでもよいという意味である。しかし，このような時間関係のほかに，単純形の事務報告的な固く冷たい感じをさけて，進行形の親しみのある感じを出そうとする気持ちがある。」

つまり進行形になると人間的な気持ちを表すというのである。また Scheffer（1975, p. 93）は，

> Verbs in the progressive demonstrate this capacity for showing futurity in a present tense or preterite even more strikingly. The progressive is then used to express near future, or intention, especially in cases where no separation of present and future is thought of, . . .

と述べ，進行形が近接未来・意図を表すことがあるとしている。

2. 3. 動詞の意味分類

2. 3. 1. 状態動詞と動作動詞

進行形はある特定の期間継続する行為・出来事に対し，それがある時点で進行中であることを表すが，一般に状態動詞はそれ自体で状態を表すので進行形で用いることができないとされている。しかし実際には，動詞や文の意味合いによっては進行形をとることが可能である。『ジーニアス英和辞典』（1988, p. xxi）には状態動詞と動作動詞について次のように書かれている。（S 動詞は状態動詞，D 動詞は動作動詞を示す。）

> S 動詞・形容詞は，知覚・感情・計測・関係などの状態を表す。人の意志で制御できない状態を表すため，命令形（形容詞では Be. . . といった命令形）にできない。また，動詞では現在形で状態を表すので，進行形にはできない。…これに対して，D 動詞・形容詞は人の意志で制御できる動作を示す。通例命令形（形容詞では Be. . . といった命令形），進行形にすることができる。

動詞の中でもはっきりと状態動詞・動作動詞の区別をつけることができるものもあるが，すべての動詞がはっきりとどちらかに区別できるというわけではなく，ボーダーライン上のケースも多いと考えられる。つまり，その動詞の持つ意味や用法によっては状態動詞も動作動詞同様，十分に進行形になることができるのではないだろうか。進行形が可能かどうかは動詞の種類だけを考えるのではなく，その動詞の意味や用法まで考えなければならないと思われる。

2. 3. 2. 動詞の分類

進行形の解釈のために大切なのは，文脈の他に動詞の意味分類である。動詞は大きく分けて動作動詞と状態動詞に分類されるが，原則的には進行形に用いられるのは動作動詞である。しかし，状態動詞も進行形になることがある。そこでどのような意味の時にそれができるのかという問題が生じてくることになる。それを考慮していくために Leech（1971, pp. 18 f）の示している動詞の分類が役立つものと思われる。

動作動詞

A. Momentary Verbs : hiccough, hit, jump, kick, knock,

nod, tap, wink, etc.

B. Transitional Event Verbs: arrive, die, fall, land, leave, lose, stop, etc.

C. Activity Verbs: drink, eat, play, rain, read, work, write, etc.

D. Process Verbs: change, grow, mature, slow, down, widen, deteriorate, etc.

状態動詞

E. Verbs of Inert Perception: feel, hear, see, smell, taste.

F. Verbs of Inert Cognition: believe, forget, hope, imagine, know, suppose, understand, etc.

G. State Verbs of Having and Being: be, belong, contain, consist of, cost, depend on, deserve, have, matter, own, resemble, etc.

H. Verbs of Bodily Sensation: ach, feel, hurt, itch, tingle, etc.

これらの例示については3章で挙げたいと思う。

2. 4. 共起する副詞類

2. 4. 1. always との共起

進行形において感情表現を表わす場合，always の挿入など副詞を伴うことが多い。小西（1989, p. 123）は次のように進行形に always がつく場合と単純形に always がつく場合とを比較している。

（13）He *is always* doing homework.

（14）He *always* does his homework.

（13）は宿題に時間をかけすぎるという感情を含んでおり，（14）は宿題をきちんとすると事実を述べているだけで別に感情は含まれていない。このように進行形の感情を表わす表現には，副詞との関わりが密接であるように思われる。

2. 4. 2. since～，for～の副詞句との共起（以下では since, for と略記する）

since や for は完了形の特徴とも言える期間を示すものである。現在進行形はその用法の点で現在完了進行形とほとんど違わない例が多く，since や for と共にすら使われる。Palmer（1974, p. 68）は現在進行形と現在完了進行形との間にはほとんど違いがない場合が多いとしている。進行形 since と共起する例を Palmer（1974, pp. 68 f）は次のように挙げている。

（15）We'*re eating* more meat *since* war.

（16）He'*s going* to work by bus *since* his car broke down.

どちらも完了形が可能で，その違いを完了形は未来に及ぶ動作を示さないが，現在進行形は未来に及ぶ動作を暗示していると述べている。しかし現在完了進行形を含めて，継続表現における進行形全体の特徴は未完了にあり，このことが未来への言及をも含むようになるのである。また for についても since と同列に扱っていいように思えるが，大江（1982, p. 55）は時間をはっきりと区切る副詞は不完結を表す進行形には用いられない例を挙げている。

（17）*They *were playing* tennis *for* two hours (from ten to twelve) yesterday.

大江はこの例は成立しないとしているが実際には使われているようである。for は継続の終了を表すため不完結を表す進行形とは共起しないとしているが，現在進行形にも現在完了進行形にも用いられている。それは for に終了しないでこれからも継続していくという含みが存在するからであるといえるのではないだろうか。次の例文は知人で製薬会社を定年退職し，仏語，伊語，日本語を話せるイギリス人 Hopes 氏にお願いした。

（18）I'*m living* here *for* six months.

（19）I *have been living* here *for* six months.

（18）と（19）は，意味は微妙に違うが実際共に使われているという。また次の現在進行形の例も成立するようだ。

（20）I'*m waiting for* three quarters of an hour.

実際には（20）は，'I'm waiting and will only wait for three quarters of an hour, then I will go.' の意味で使われる場合があることは疑えないようである。またこの現在完了進行形も成り立つことが考えられるという。

（21）I *have been waiting for* three quarters of an hour.

(21) は，'I have already been waiting for three quarters of an hour, and am still waiting' の意味で実際に使われているようである。結局，since や for は文脈などにより制約は受けるとしても現在進行形，現在完了進行形との共起が許されてもいいのではないかと思う。

2. 4. 3. その他の副詞類との共起

進行形とその他の副詞類との共起について，「すぐに，ただちに」の意味の副詞を見ていきたい。以下 (22) から (27) の資料に関しては Hopes 氏にお願いした。次の例はすべて進行形と共起しうるという。

(22) I *am coming* home *immediately*.
(23) The snow *is melting instantly*.
(24) He *is coming* back *in a moment*.
(25) She *is going* out *at once*.

(22)，(24)，(25) は近接未来を表す。またこれらの現在完了進行形は容認されていないように思われる。(23) の instantly は now の意味で使われ，またこの文の現在完了進行形は何かつけ加えて，例えば，'It is not as cold this week so the snow has been melting instantly.' として使われることがあるようだ。このように「すぐに，ただちに」という意味の副詞は進行形と共起する場合も多いと言える。最後に ever と never については，例外を除いては進行形とは共起しないという。

(26) *The lady *is repeating ever* the same words.
(27) *He *is never refusing* to help.

(26)，(27) 共に副詞と現在進行形は共起せず，現在完了進行形とも共起しないと思われる。

Ⅲ．検　　証

この章ではいくつかの資料から引用した例を挙げてどのように進行形が使われているかを前章で論じたことをもとに考察していきたい。

3. 1. 動作動詞

3. 1. 1. 瞬間動詞

瞬間動詞が進行形に用いられる時，動作の繰り返しを意味する。

(28) Willie *is knocking* people backwards, knocking them out of their senses, he's batting down balls, he's tripping runners and getting a yellow flag.
(*Slab Rat*, p. 45)

is knocking という表現は長さのない動作の連続であり，knock という行為が集まって成り立つと思われる。つまり瞬間動詞の場合は点で表されたそれぞれの動作に焦点があると言える。

3. 1. 2. 移行的出来事動詞

移行的出来事動詞が進行形になる場合，移行そのものよりは移行への接近を示す。次は移行的出来事動詞 fall の例である。

(29) He's the tallest person in the room, almost touching the ceiling, and his square glasses *are falling* off his nose. (*Slab Rat*, p. 101)

fall という動詞は時間的な長さがあまりないように思われるが，(29) の場面においてこの are falling は，彼のメガネが落ちつつあるとはとれず，落ちるという段階のひとつであると思われる。つまり途中までずり落ち，中途の段階であると考えられるのではないだろうか。

3. 1. 3. 活動動詞

活動動詞は進行形になる場合，継続中の動作を示す。

(30) *More and more*, they *are learning* to play the game of democracy — without losing power.
(*The Times*, April 1, 1996)
(31) A town on the outskirts of Mount Fuji *is trying* to have Feb. 23 recognized Mount Fuji Day.
(*The Japan Times*, January 18, 2002)
(32) They knew that life nowadays was harsh and bare, that they were often hungry and often cold, and that they *were* usually *working* when they were not asleep. (*Animal Farm*, p. 75)

(30) と (31) は現在進行形，(32) は進行形において活動動詞が使われ，それらの進行形は動作の始まる時点や終わる時点に焦点があるのではなく，継続中の動作全体に焦点があると思われる。また (30) の more and more によって，限られた継続を含意していると

考えられるだろう。

3. 1. 4. 過程動詞

過程動詞が進行形に用いられる場合，行為の初期から少なくとも中期を越えない間のいずれかの時点に焦点があると考えられる。

(33) '. . . And perhaps, as Benjamin *is growing* old too, they will let him retire at the same time and be a companion to me.' (*Slab Rat*, p. 80)

3. 2. 状態動詞

3. 2. 1. 受動的感覚動詞

受動的感覚動詞が進行形に用いることができるのは過程動詞化，あるいは活動動詞化した場合が考えられるが，その場合における進行形がもたらす効果は動作動詞の場合と同じであると思われる。

(34) "Whose side are you on anyway?" he asks. *Is* he *seeing* a conspiracy? (*Slab Rat*, p. 310)

(34) は活動動詞的に使われており，文全体に焦点が置かれていると考えられる。

3. 2. 2. 受動的認識動詞

このような動詞が進行形で用いられる場合，動作主の積極的な心的活動を意味する。

(35) But I'*m thinking* of the Ethan Cawley novel. (*Slab Rat*, p. 48)

ここでの I'm thinking は考慮を示し，この場合活動動詞として機能していると思われる。

3. 3. 副詞との関係

3. 3. 1. always など常習を表す副詞との共起

進行形と副詞との関わりが密接であるように思われることは前章で述べたとおりである。

(36) Even the stuffiest of us who *are always complaining* about the misuse or mispronunciation of individual words know in our hearts that the language can't stand still. (*Words, Words, Words*, p. 48)

進行形と always という常習を表す副詞が共起する場合，感情的色彩がより強く表れる。

3. 3. 2. for との共起

for は継続の終了を表すため，不完結を表す進行形と共起しないとされているが，実際には次のように現在完了進行形にも用いられている。

(37) People laugh and then he says, "I'*ve been wanting* to make that joke *for* years — this also gets laughs, helped no doubt by the fact that he pronounces years "yares". (*Slab Rat*, p. 184)

彼はずっとこのジョークを言いたいと思っていて，やっとその希望がかないそしてまだこれから先も継続していくことを含意しているといえるのではないだろうか。

Ⅳ. 結　　論

進行形の本質的意味を考える際，動詞の意味内容が密接に関わっているようである。進行形の意味は継続，限定的継続，未完了の3つの要素に分けられる。単純形と進行形を比較した場合，前者は永続的，後者は一方的な状態を表すと思われ，進行形が限られた期間内の習慣的動作を示す場合，その期間は副詞語句によって限定されることもある。

進行形は非難，不満，困惑などの複雑さをもつ感情的色彩を表すことがあり，またその根本義は強調にあるという考えもあり幅広い解釈がなされる。進行形の感情表現は文脈に大きく依存し，その文脈に重要性があるように思える。また進行形と副詞 always などが共起すると感情的色彩がより強く表われ，副詞と進行形の関係は密接であるように思われる。since や for も文脈などにより制約を受けたり，例外はあるにせよ進行形との共起が成り立つように考えられる。しかし，ever や never は共起する例はほとんど見られないと考えられる。このように進行形の意味を考える際，限定的継続，感情的表現，動詞の意味分類，そして副詞類との共起をどうしても考えないといけないと思われる。

動詞は大きく分けて，動作動詞と状態動詞に分けることができ，動作動詞が進行形に用いられることができるのは承知のとおりだが，一般的には進行形に用いられないとされる状態動詞も実際には進行形になりう

る。

動作動詞の進行形は継続中の動作，またはその動詞の過程の２通りがあると思われる。前者は活動動詞が用いられる場合で，具体的な動作，反復，習慣などを示すと考えられ，後者は移行的出来事及び過程動詞が用いられ，動作の過程を示すと思われる。状態動詞が進行形で使われるのは，活動動詞もしく過程動詞化される場合で，受動的感覚動詞と受動的認識動詞は活動動詞に，所有と依存の状態動詞は活動動詞または過程動詞に転化していると考えられる。身体感覚的動詞は意味が変化することなく進行形になる。

文　献

《研究書》

Charleston, B. M. *Studies on the Emotional and Affective Means of Expression in Modern English*. Bern : Francke Verlag Bern, 1960.

Greenbaum, S. and Quirk, R. *A Student's Grammar of the English Language*. London : Longman, 1990.

細江逸記『動詞時制の研究』泰文堂，1931。

池田義一郎『否定・疑問・強意・感情の表現』研究社，1967。

Jespersen, O. *A Modern English Grammar on Historical Principles*. (Part Ⅳ) London : George Allen & Unwin, 1931.

————. *Growth and Structure of the English Language*. [S. I.] : Donald Moor Books, 1938.

Leech, G. N. *Meaning and the English Verb*. London : Longman, 1971.

中尾俊夫『英語の歴史』講談社，1992。

中島文雄『英語発達史』岩波書店，1970。

大江三郎『動詞（Ⅰ）』研究社，1982。

Palmer, F. R. *The English Verb*. London : Longman, 1974.

Quirk, R. et al *A Comprehensive Grammar of the English Language*. New York : Longman, 1985.

Scheffer, J. *The Progressive in English*. Amsterdam : North-Holland, 1975.

Van der Laan, J. *An Enquiry on a Psychological Basis into the Use of the Progressive Form in Late English*. Gorinchem : Vitgave F. Duym, 1922.

《辞書類》

『英語基本形容詞・副詞辞典』研究社，1989。

『ジーニアス英和辞典』大修館書店，1988。

『オックスフォード実例現代英語用法事典』研究社，2000。

《資料源》

Heller, T. *Slab* Rat. London : Abacus, 2001.

T・ヘラー著，小原亜美訳『エディターズ！』角川書店，2002。

C. M. Matthews. *Words Words Words*. Tokyo : Kinseido, 1995.

Orwell, G. *Animal Farm*. London : Penguin Books, 1989.

G・オーウェル著，佐山栄太郎訳『動物農場』南雲堂，1980。

The Japan Times, Mount Fuji Day, January 18, 2002.

The Times, The Game of Democracy, April 1, 1996.